明治信和産業株式会社
アサヒストアー　代表取締役社長　**西村　則雄**（にしむら・のりお）さん（64歳）

●昭和50年湖陵高校卒業、昭和54年明治信和産業株式会社入社、平成11年に代表取締役社長に就任。趣味は読書。数学が好きで、アインシュタインに興味を持つ。相対性理論を勉強したい。

配食サービス事業の受託者である明治信和産業株式会社（アサヒストアー）の西村則雄代表取締役社長に、配食サービス事業について聞きました。

――なぜ町の委託を受けて配食サービス事業をやろうと思ったのですか。

「私どもは地域に密着していますし、配送も得意分野ですから、以前この事業をやっていた事業者が撤退すると聞いて、それならばぜひやらせてください、とお願いしました」

――一日何食を配食しているのですか。

「その日によって異なりますが、昼食と夕食を合せて、平均すると20食くらいです。少ない日は15食という日もあります」

――お弁当は作るにあたって、心がけていることはありますか。

「できるだけ食事を楽しんでいただきたいとの思いから、一番はおいしいということ。おいしいと言っても千差万別ですが、多くの方が食べておいしいと思えるものを作るということですね。もう一つは、栄養バランスが良いものにするということ。タンパク質も大切ですから、お米はできるだけ良いものを使って、野菜や果物を入れてと、トータルでバランスが取れるようにしています。病院食とまではいきませんが、塩分を控えめにするということは、徹底してやっています」

――新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、町内の飲食店でもテークアウトをする店が増えました。たとえば、配食と同じメニューのお弁当をテークアウトできるように店頭で販売したり、希望者に配達したり、ということも考えられると思いますが。

「それは確かに考えました。私も商工会の役員をやっておりますし、商工会からも『テークアウトのチラシにアサヒストアーさんも広告を載せませんか』というお話をいただきました。ただ、テークアウトのチラシは、町が「元気!!しらぬか応援券（以下、応援券）」を配布するタイミングで作成されたものですし、応援券の趣旨からすると、外出自粛によって特に影響を受けた飲食店業を優先的に応援する、というものがありますので、そう考えるとちょっと違うかな、と思ったものですから、その話はお断りした経過があります。それとは別に、お客さまが求めるのであれば、お弁当でも何でも届けていますし、それはこれまでと同様に継続してやっています。ですが、商工会のテークアウト事業に入って、飲食店専用の応援券を使えるということになれば、それは趣旨が違うと思いましてね」

――高齢者の中には、飲食店に行っても油や塩分を控えめにしたメニューが少なく、中々食べられない、せっかくの応援券（飲食店専用）も使い切ることが難しい、といった声もあるようです。

「実際、現実的に考えると、高齢者の中には、外出が困難な人もいますし、テークアウトといっても

調理員　さとう・まりこ
佐藤　円子さん